

令和6年度「第1回技術交流会議」(農林水産省情報分析官との情報交換会)開催

技術移転部 教授 島崎昌彦

6月27日(木)午後、恒例の農水省農村振興局、関東農政局の7名(※)の「情報分析官」との情報交換のための「技術交流会議」を対面/Webハイブリッド形式で開催しました。国際農林水産業研究センター(JIRCAS)からも関連分野の研究者にご参加頂きました。この会議は平成23年度より基本的に毎年2回開催してきています。

情報分析官の方々は、高度に専門的な知識と経験を元に政策検討のための助言・提言を行うために、現在の農業事情に即した課題を設定し、情報を収集・分析されています。本会議では、各分析官の課題の内容や分析状況、および当部門における研究成果を共有し、意見および情報の交換を行っております。これにより、情報分析官の方々には研究者の立場からの意見や情報をご活用頂き、また、当部門としては研究成果の行政現場への適応性などに関するご意見や、行政現場における技術ニーズの情報提供などを頂いております。

今回は、当部門からは実演と講演を1題ずつ行いました。実演はパイプラインシステムの余剰圧力を発電や揚水に利用する技術で、環境省のカーボンニュートラルを目指す技術開発・実証事業において行っている「農業水利システムにおける再エネを導入した揚水灌漑・余剰水力利用によるCNの実証」をテーマとしたものです。講演では、施設工学研究領域の金森拓也研究員より「農業水利施設における耐摩耗性評価試験の研究動向と最新研究」と題して、農業水利施設のコンクリートを対象として当部門で開発した新しい耐摩耗試験を紹介しました。紹介した試験方法は、当機構Webサイト内の「農業農村整備のための実用新技術成果選集(2024年)」のIII.2.に概要を掲載しておりますのでぜひご覧下さい。実演、講演どちらに対しても分析官の方々から活発なご質問やご意見が寄せられ、環境や施設の保全が農業農村工学分野においても極めて重要な課題であることが改めて認識されました。

分析官の皆様のご発表は、昨年度から継続のテーマが4題、今年度着任された方のものが3題で、主に今年度の方針についてのご説明でした。いずれもご検討の最中であり基本的に未公表の内容となります。テーマは最新の工学的なものから社会科学的なものまで幅広く農業農村整備行政の現場における様々な問題を取り扱った、研究組織の我々にとっても非常に興味深いものでした。当部門側から、情報の詳細な内容についての多くの質問や、研究において得た知見の紹介や技術的なサジェスチョンなどを行いました。当部門にとってこの会議は、現場での問題に関する知見を深められる非常に有用な機会です。

会議後に場を変えて近隣における情報交換会も開催し、お互いの理解をより深めることができました。当部門にとってはもちろん、分析官の方々にとっても有意義な時間とできたのではと確信しております。

(※ 農村資源情報分析官、土地改良情報分析官、海外農業農村開発情報分析官、政策情報分析官、農村整備情報分析官、災害情報分析官、国営事業情報分析官)



パイプライン余剰水力利用技術の実演



会議の全景